

わたしたちが運ぶのは未来です

**運輸省**



# みなと しみず

**発行所**

**第五港湾建設局**

**清水港工事事務所**

〒424 静岡県清水市日の出町7番2号  
TEL 清水(0543)52-4146(代)



清水港工事事務所の  
化粧直し完了

新 装 成 っ た 庁 舎

当事務所の外壁塗装が11年振りに行われた。庁舎は長年の風雨により傷みや汚れが目立つため、今回の全面的な改修となった。配色にあたっては、「清水港・みなと色彩計画」に従って、日の出地区のイメージである「賑わい、活気、楽しみ、うるおい、いこい」を基調に検討された。

具体的な配色については、当色彩計画のアドバイザーである東海大学短期大学部東恵子助教の指導を受け、コンピュータ処理された完成予想図を参考に、公共の建物ということも配慮し、落ちついたグレーとクリーム色を基調にアクセントカラーとしてブルーのラインを施したものに決定した。

新装された庁舎に負けないよう、清水港発展のため職員一同がんばる決意です。

**“未来の港”  
小学生傑作集**

未来の港をテーマにした作文・図画コンクール（主催…日本港湾協会）の模様を12月号で一部紹介しましたが、この度、優秀賞30点（うち最優秀賞3点）が決定しました。

全国から図画一〇六七点、作文三四九点（静岡県からは、



左から尾崎所長、望月さん  
草ヶ谷さん、斎藤校長

式後尾崎所長は、「作文・図画とも夢のある将来の港の姿について、子供らしい素直な表現で描かれており、大変よい作品だと思います。私たちも港づくりをする上で、これらの作品を大いに参考にしたいと考えています。」と感想を述べ、また、望月麻衣さんは「作品に書いたものと同じような、夢のような港があったらよいと思います。」、草ヶ谷恵さんは「こんな鯨の形をした船があればよいと思います。」と受賞のよろこびを語っていました。

図画56点、作文7点）の応募があり、その中から清水市立入江小学校の4年生望月麻衣さんが作文の部最優秀賞、同草ヶ谷恵さんが図画の部優秀賞に選ばれました。

授与式は、3月10日同小学校で行われ、尾崎清水港工事事務所長から二人に賞状が渡されました。

また、当所あて応募された作品は、小学生時代に想像した傑作がいつまでも各人の記念として残ればと考へ、「作品集」に製本し配付しました。このような催しの意義は、一人でも多くの人が港に目を向け関心を持って頂くことであり、港湾業務に携わる者として、港湾行政を円滑に進めていくための第一歩と考えております。今後とも、なお一層のご協力をお願い致します。(ウォーター・フロント窓口)

### 東助教授に感謝状



感謝状を受けられる 東助教授

3月31日清水港工事事務所所長室において、清水港の美しいみなとづくり”に貢献された東海大学短期大学部東恵子助教授に、尾崎所長から感謝状が贈られました。

### 清水港湾文化発掘調査

#### 第二回委員会について

清水港周辺の文化施設を発掘し広く一般に認識してもらい、港にまつわる文化を継承するとともに、二一世紀に向けた新しい港づくりのための意見交換を行う「清水港湾文化発掘調査」の第二回委員会(委員長：酒匂敏次東海大学教授)が平成五年二月二三日にフェルケール博物館に於いて開催されました。

今日のみなどは、生産、物流機能の拠点としての役割のほか、潤いのあるウォーターフロントが求められています。その一つとして、清水港の自然景観と人工景観の調和を図る「みなと色彩計画」があり、当計画の企画、立案及びその推進における中心的指導者として東助教授が活躍されております。今回その功績を称えての表彰となりましたが、今後においても、清水港を含めた県内各港の整備のあり方についてご指導をお願いします。

今回の委員会では①客船誘致を推進するためのソフト・ハード面についての検討、②テクノスパーライナーの受け皿についての検討、③これらの検討を通じて清水港の活性化方策についての検討を中心に活発な意見交換が行われました。



左から「飛鳥」「おせあにつくぐれいす」清水港日の出ふ頭

平成三年度にスタートしたばかりの客船誘致については東京、大阪、神戸といった主要港湾と比較し、ハード面の遅れが否めない現状であり、客船バースの整備や客船ターミナルの建設を始めとした施設整備を早急に始める必要性が揚げられた他、外航客船だけでなく、静岡の豊富な観光資源を生かした内航定期船の誘致も推進していく必要性も揚げられました。テクノスパーライナーについては、久田安夫委員(静岡県地方港湾審議会委員)よ

り現状と今後の課題について詳しい説明を受け、モーターシフトとしての位置づけ、輸送形態、採算性等現在検討中の内容についての報告がなされ、受け皿としての清水港の可能性についての意見交換も行われました。

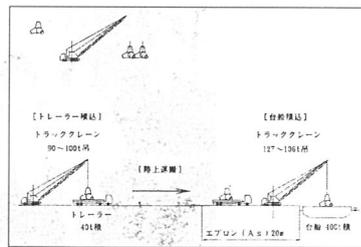
今年度実施した本調査も予定の二回の委員会を無事終えた。これまでに検討された項目を基に、清水港の活性化に向けた方策を検討していく他、取捨した港湾文化遺跡の資料を広くアピールするためのパンフレット造りも進めていく計画です。

### 業務のOA化推進に伴うパソコンの導入

近年、五建管内でも盛んに業務改善が叫ばれていますが、その手段として最も期待されているのがOAです。OAという言葉も一般的になった今日この頃ですが、清水港工事事務所にも業務改善の願いを込めて8台のパソコンと4台のプリンターが導入されました。

8台のパソコンの内6台は、ノート型と呼ばれる小型軽量のもので、場所を取らず容易に持ち運びができるスグレものです。スペースに余裕の無い当事務所にとってまさにうっ

てつけの機種であり、現在各職員の机の上で活躍中です。また、プリンターには従来型(シリアルプリンター)のほか、小型軽量のディスクトップ型、音の静かなバブルジェット方式の最新モデルや、高速印刷やプロッター機能を持ったレーザープリンターが導入され、それぞれの特徴を生かして使用されています。



コンピューターで描いたテトラポッド運搬図

パソコン用のソフトとして、ワープロ、表計算、図形処理(CAD)、データベースおよび日本語BASISIC等が導入されています。近年のソフトの多様化・充実度には目を見張るものがあり、初期の頃に比べて格段に簡単に使いやすいものが増えてきています。導入されたパソコンは現在、書類及び資料作成・数量計算・発注図作成等、業務の中で大きな威力を発揮しています。(工務課 村上裕幸)

### 講演

#### 首都圏より見た清水港



中村開発企画調整官

清水港湾連絡協議会は、2月23日運輸省港湾局中村豊開発企画調整官を講師に迎え清水港の物流に関する講演会を出セーターで催した。

講演は、「首都圏より見た清水港」のテーマで行われ、国内の港における現状の課題、今後予測される貨物輸送形態の推移等が話された。

清水港においては、首都圏への南からの貨物の受け入れ港としての魅力があり、また、海の国土軸を形成する意味からも、ユニットロードやTSLを積極的に取り組み、豊かな自然環境と立地条件に恵まれた清水港をみなさんの力で発展させてほしいと結ばれた。

### 長年の勤務大変 ご苦労様でした

#### 退官に際して

昭和26年5月第二港湾建設部清水港工事事務所に奉職、このたび3月31日をもって40年余りの役人生活にピリオドを打つことになりました。

顧りみずればその間、小過は数限りなくあったかと思いますが、先ずは大過なくこの日を迎えることの出来たことは月並みの言葉ですがひとえに諸先輩のご指導、同僚諸氏、又は後輩の皆様のご支援の賜であり誠に感謝に堪えません。改めてこの紙上で深甚なる敬意を表する次第であります。

さて、今となって私の脳裏の思い出の数々をフィードバックしてみると、御前崎港の御前崎灯台建設に従事した半年間、伊勢湾台風の四日市港の三カ月間、大阪の自衛隊に配属され木曾三川の遺体捜索（これは余りにも言語に絶するものであり一日でやめさせて貰った。）直営工事の華やかなりし頃、定員、常勤職員120名、その他に安定所人夫約30名の給与、賃金の支給事務に明け暮れたこと。興津埠頭の第一回、第二回の補償事務、

更にはケーソンヤード建設の補償交渉を経験したこと。漁業補償で会計検査院へ呼び出されたこと。海龍丸での二年余りの生活（当時は70名近く乗船していた。）での鹿島港、横浜港、清水港。そして单身生活の人事課、名古屋港、用度課、御前崎港と数々の想い出がよみがえり感慨もひとしお、忘れようとしても忘れることのできないことばかり。

又、北は青森、南は鹿児島と官費で旅行をさせて頂いたことも現在では考えられない懐かしい思い出であります。過去の栄光を忘れた弱い清水港野球部で二建大会に出場したこと。二建、五建OB野球大会を14回も開催できたこと

etc.;それにつけてもどこにでもついて廻ったのは酒、酒、酒、40年間で飲んだ量ははかり知れない。

そして残念なことは40年の園田庶務課長、最近の杉田運転士と永遠の別れをしたことは悲しい思い出の一つです。一般的に公務員は現役時代に狭い世界に閉じこもる習慣が身につく、いざ退官してみると身の置きどころにも困り一気に老け込んでしまう人が多く聞いていますが、私は幸いボランティアではあるが地元興津地区はもとより、清水市体育協会、清水市ソフトボー

### 退職に際して

庄 司 政 功



まだまだ自分は程遠いものと思いつけて来た退職の順番がとうとう巡って来たようです。

思へば長かったような又、あつと云う短さだったのかな

ル協会で体力の続く限りスポーツの振興に微力を注ぐことで充実したシルバークリエイティブなものと思えます。今後は暫く充電期間を設け心身共にリフレッシュした上でセカンドライフを楽しむ予定でしたが縁あって地元の会社に4月1日より勤務することになりました。これからは民間人として、親方日の丸的な考えを改め従来の経験を生かし努力する所存であります。

山田 秀夫

あと思ったりして四十六年間の勤務にピリオドを打つことになりました。

昭和二十三年四建の小倉港工事事務所を振り出しに洞海湾工事事務所、二十五年清水港工事事務所へと配転になりこの直営部隊として十年間勤務しました。

その後三十六年、名古屋港のドラグサクシオン浚渫船海龍丸に六年間、清水港の自航起重機船に五年間勤務し五十七年再度名古屋港へ配転となり、平成三年最後の御奉公として三たび清水港勤務で退職を迎えることとなりました。

思い起こせば様々な事柄―楽しかったこと、辛かった事など色々思い出され、やはり長い年月だったのだなあと、感慨に耽り、この長期間を大過なく勤務することができたのも皆様方の御支援の賜であつたと深く感謝する次第であります。

これからは第二の人生を歩く訳ですが、今迄の経験や、趣味を活かして、有意義に送りたいと思っております。最後に皆様の御健康と、益々の御発展を祈念して御礼の言葉と致します。

# 「しもだ」就航



監督測量船「しもだ」

3月17日下田工場の新造船「しもだ」が就航し、防波堤建設の監督測量業務にあたる。本船の特徴として、捨石・方塊等の施工管理の効率化を図るため、船底に直径約50cmの海底観測窓が取り付けられている。観光船以外で、船底にガラス窓が取り付けられたのは、我が国が初めてです。

また、船体のカラーリングについては、当事務所と東海大学短期大学の学生に募集したところ、28通の応募があり、所内アンケートの結果、運輸省のシンボルマークであるブルーとグリーンを取り入れた学生の作品に決定した。

なお、船名決定委員会で採用された「しもだ」の揮毫については、新井局長の直筆によるものである。

全長 一七・〇〇m

## 主要目

## 寄稿

### 基地誕生のあゆみ

国土総合建設(株)静岡営業所長 (元清水港工事事務所 次長) 大塚 終 平

環境庁の所長さんの言葉は、「建設する」とした内容の事前審査を開始し、これと平行して変更しなければならなかった理由を環境本庁が受け入れられるよう整備しなさい。このような意味合いがあったように思われました。

このことにより事前協議が開始されましたが、自然を保護管理し人間のために役立てようとする立場と自然を改良改善し人間のために役立てようとする立場の基本的な考え方の違いが早々に現れ事前協議は幾度か中断することになりました。それは環境庁より作業基地の目的が完了したら、すべての工作物を撤去し原状に回復せよという条件が「建設する」場合の前提であるとされたことです。

このことは立場の違いその

幅 四・二〇m  
深さ 二・一〇m  
総トン数 二十二トン  
主機関 445ps×2170rpm×2基  
速力 二十五kt以上  
最大搭載人員 二十四名  
航行区域 沿海区域(限定)  
(工務 課)

ものですが、我々としてはこのような条件は、絶対に受け入れられることがらではありませぬ。基地を撤去し原状に回復しなければならぬ理由は何のようなことなのか質問したところ、「基地は防波堤建設のために作られるものであり、その目的完了後においても現状のままとすることは極めて自然環境に悪影響を与えることが考えられる。それはレジャーボートの基地となったり、車が乗り入れられたり、また一般観光客も集まり自然公園の荒廃につながることになる。立場の違いが言わせることなのでしょうが、自然の保全のみが先立って地域住民への「気くばり」ということは無関心のようにさえ思えたものです。

確かに基地は防波堤建設のために必要なものであります。その目的が完了後地域のために有効活用することもまた重要なことであり、周辺と十分に整合性のとれた利用は可能であり自然公園の荒廃につながることは考えられず、かえって撤去することが自然環境に悪影響を及ぼすばかりか、地域の生活環境に与える問題の方が大きいと考えられる、と繰り返し「撤去せず」とした方が自然環境を守るために有効である。かつ、地域

に役立つことを説明し、ようやくのことで了解を得て安堵したのも束の間、何か気持ちのすきまを突くかのように難問奇問が次々と出され唖然とさせられたものです。

(次号へつづく)

## 工場だより

### 御前崎工場 空から現場監督



御前崎港東防波堤

先日、生まれて初めてヘリコプターに乗せていただく機会があり、当日は、生憎の曇り空で霊峰富士山を仰ぐことができませんでしたが、御前崎の上空を約三十分間フライトしました。

通常は、二次元でしか物を見ていない性か、三次元となると、日頃から慣れていないこともあり恐さもプラスされ、視野も広角となり、正直に言って、ここから見える御前崎港

## 清水港の動き

- (2月)
    - 16日 第2回御前崎港整備構想調査委員会 (静岡)
    - 22日 下田港新構造防波堤施工技術調査検討会 (静岡)
    - 23日 清水港湾文化発掘活用調査委員会 (清水)
    - 24日 第2回清水FAZ調査委員会 (清水)
    - 25日 人事院中部事務局長清水港視察
  - (3月)
    - 15日 第3回御前崎港整備構想調査委員会幹事会 (静岡)
    - 17日 第3回沼津MTP調査委員会幹事会 (静岡)
    - 24日 第2回静岡清庵地域振興方策調査懇談会 (静岡)
    - 24日 第3回御前崎港整備構想調査委員会 (静岡)
    - 25日 第3回清水FAZ調査委員会 (清水)
    - 29日 第3回沼津MTP調査委員会 (静岡)
    - 30日 清水港みなと色彩計画推進協議会 (清水)
  - (4月)
    - 14日 第11回清水港湾機関長会議 (清水)
- は、ほんとうに面白い(?)形をしているなあ……というのが実感でした。
- この貴重な体験に誘って下さった方に感謝しております。
- (富居工場長)